

# 男子新体操に 恋してる！



国士舘大学2010

椎名桂子

## 第1章 ここが「はじまり」

---

そう。

はじまりは「ここ」だったんだ。

TBSで男子新体操を題材にしたドラマ「タンプリング」が放送されるから、すこし宣伝してもらえないかと男子新体操関係者からもちかけられたんだ。

たまたま2008年、2009年あたりから雑誌取材の関係で全日本選手権くらいは男子新体操も見られるようになっていた(それ以前は女子 only)。だから、「まあ、知ってる範囲で男子新体操の紹介でもしてみるか」…その程度の気持ちで、自分のブログ「新体操研究所」で男子新体操の記事を書き始めたのだった。記念すべき最初の記事は、このころ「タンプリング」の出演者の指導も引き受けていた国士舘大学。こんな感じの記事だった。

●2010年3月17日「新体操研究所」

### TBSドラマ「タンプリング」放送直前！勝手にタイアップ企画～ 男子新体操の魅力を伝えます！～国士舘大学(団体)～

いよいよ放送開始(4/17)まで1ヶ月を切りました。そう！TBSの男子新体操ドラマ「タンプリング」です。ほんとに男子新体操がテレビドラマになるなんて…(感涙)しかも！土曜の8時からって…ゴールデンですよ！

これは男子新体操にとっては一気にメジャー化のまたとないチャンス！ぜひぜひヒットして、より多くの人に「男子新体操の魅力」を感じてもらえれば、と思います。

と言いつつも、じつは私にとっても、数年前まで男子新体操は女子を観戦しているときのブレイクタイムでした。しかし、2003年の全日本選手権あたりから、「ん？男子もなかなかおもしろい」と感じるようになり、2005年の千葉インターハイでは、女子をしのぐほどの男子新体操の盛り上がりにより圧倒されました。

そして、2008年、2009年の全日本選手権、インカレは、かなり真剣に男子新体操を見ました(雑誌に記事も書きました)。真剣に見てみると、まあ、ほんとに男子新体操は魅力にあふれています。もちろん、タンプリングや団体の組技に代表されるような、迫力！それが最大の魅力と言えるでしょう。だけど、それ以上に、その素晴らしい表現力が、今の男子新体操の魅力ではないかと思うのです。

先日のバンクーバー五輪のフィギュアスケートを見ても、女子の華やかな演技以上に、男子にはその選手が描き出そうとしている世界が見える演技が多くなかったでしょうか。高橋大輔選手のフリー演技「道」はその代表格といえると思います。男子新体操にも通じるところがあると思います。私は本来、女子の新体操が大好きで、追いかけていたのですが(今もです)、正直、



「表現」という点では、ここ数年、男子に水をあげられつつあるような気がしてなりません。もちろん、それはルールによる部分も大きいのですが、意外に男子のほうが「描く世界に入り込む力」が強いのかな、という気もしています。

そんな魅力たっぷりの男子新体操だから。



テレビドラマ「タンプリング」をきっかけに、男子新体操に興味をもった方に、リアルな男子新体操の魅力をすこしでも知ってもらえるように、当分、男子新体操の記事を連載してみようと思います。

前置きが長くなりましたが、その第1回は、「国士舘大学」です。「タンプリング」にも全面協力している国士舘大学。俳優さんの技術指導から、出演まで。「タンプリング」は国士舘大学なしには実現しなかった企画なのではないかと思うほどの協力ぶりです。 国士舘大学

といえば、男子新体操では老舗です。近年では他大学の追い上げもあり、「常勝」というわけにはいかなくなってきていますが、常に優勝を争う一角には食い込んでいるあたりは、さすが！ という感じです。

2008年の全日本選手権では、青森大学の6連覇を阻止して、久しぶりの優勝を成し遂げた国士舘大学の団体ですが、2009年の全日本選手権では、再び青森大学の後塵を拝することになってしまいました。しかし、優勝こそは逃したものの、国士舘大の演技は、十分にステキでした。 以前から定評のあった力強く男性的な動き、正統派の男子新体操の魅力に、ここ数年、美しさが加わって、ほんとに「カッコいい！」演技を見せてくれるのが国士舘大学の団体です。

男子の新体操は団体も個人もそれぞれのチーム、選手ごとに個性があるのですが、国士舘大学の個性は、そのバランスのよさ、ではないかと思います。いかにも、男子新体操！ なタンプリングの力強さ、組技や飛び技の迫力、おもしろさ、そして、ダンス的な美しさ、それらが程よくバランスよく盛り込まれていて、ある意味、典型的な男子新体操のよさ、がよくわかる演技をするのが国士舘大学ではないかと思います。

伝統を守りつつ、革新も進めている、そんな感じでしょうか。

とくに、2009年の全日本選手権での演技は、6人そろってのバク転がぞくっとするほどそろっていました。そういう「男子新体操の本懐」をしっかり大切にしているあたり、国士舘大学！ という感じでした。「タンプリング」では、主人公・航たちのライバル校(強豪校)役として登場する国士舘大学の演技にご期待ください。

<撮影: 榊原嘉徳>

※榊原 嘉徳(さかきばらよしのり)

⇒1985年よりスポーツ写真を始める。さまざまなジャンルを撮っていたが、体操関係の役員様と出会い新体操、器械体操中心になっていく。現在、スポーツナビ、ジュニア体操連盟での撮影を担当。感動をいかに伝えられるかをモットーに撮影に向き合っている。

## 第2章 男子新体操体験教室レポート

### TBSドラマ「タンブリング」勝手にタイアップ企画 ～男子新体操の魅力を伝えます！ 多摩市男子新体操体験教室レポート

行ってきましたー！ なにしろ多摩市はほとんど地元ですから。これは行くしかないでしょー！ 先日、高校選抜大会のレポーターを務めてくれたAさんも、駆けつけて「体験教室に参加できる子どももいないのに男子新体操見に来たおばさんコンビ」は、5月9日、多摩市総合体育館に向いました。

ドラマ「タンブリング」をきっかけに男子新体操に興味をもったという人が参加するには絶好のタイミングで全国各地で開かれているこの「男子新体操体験教室」ですが、正直、果たしてどれくらい人が集まるのか？ がかなり心配でした。「タンブリング」の視聴率も今一步伸び悩んでいることもあり、開催したものの閑古鳥…なんてことがないといいなあ、と思っていたのです。

私たちが、会場についたときは、駐車場にも十分な空きスペースがあり、「車止められてよかった」と思い



つつも、つまりこれって、あまり人が集まってないってことかな？ と不安にもなったのですが…。 そんな心配は杞憂におわりました。開始時間が近づいてくると、続々と参加者が増え、以下の画像のような状況に(嬉)。駐車場が空いていたのは、私達が張り切って早くから到着していたせい(苦笑)だったようです。

国立館大学男子新体操部監督・山田小太郎先生(タンブリングの俳優さんたちの指導ですっかり有名に…。第1話には出演もされましたよ～)からのごあいさつのと、まずは、学校体育で使う「マット」を使っての技披露が行われました。基本中の基本の「前転」から、「ロンダード+ばく転+前宙？」などの難しい連続技まで。現役の国立館大学の選手達のすばらしい技に、会場からは「おおー！！」と感嘆の声があがっていました。(あまりにも近くで、あまりにもスピードのある演技で、私の技術ではまったく撮影ができず…) さらに、そのあとは、個人演技のスティックとロープが行われました。天井がやや低く、マットも女子用だったために、内容をややセーブした演技にはなっていたようですが、それでも、男子新体操ならではの迫力と美しさは、十分観客の心をつかんだようでした。

そして、模範演技のトリを飾ったのは、みなさんお待ちかねの団体演技！ なんと、今年の新作披露だったそうで、東日本インカレ前にこの演技を見ることができるなんて、貴重なことこのうえなし。「おおっ、新作だって！」と色めきたつ私とつれのAさん。ほとんどの観客の方は、新作も旧作もなく、初めて男子新体操を見るのだろうに…。うちら、ただのおばさんとしてはかなりヘンだから～。 さて、その新作演技ですが。カッコよかったですよ～！ そして、さすが国立館なそろいっぷりでしたよ～！ 男子新体操は、どこのチームもシンクロ性は高いですが、それにしても、国立館のばく転連続からラストのスワン(っというのかな、伸身での後宙返り)×6人は、ほんとうによくそろっていますよね。ラストの宙返りでの空中の動きも見事にそろっていて。「一体感」がすばらしい！ まさに「呼吸を合わせている」という感じでした。 試合会場で見

るよりもずっと近くで演技を見ることができたので、選手達の息遣いまで、しっかりそろっていることなどもよくわかり、感動的でした。

会場もわれんばかりの拍手喝采で盛り上がっていましたよ。男子新体操は、マイナーではあるけれど、こうやって実際に見た人には、すごく魅力が伝わりやすく、そこがいいんですよね。この日の観客のほとんどが、男子新体操のことなんてなにも知らない人達ではないかと思います。それでも、「男子新体操ってすご



いね！」「かっこいいな～」ということは、ストレートに伝わったようでした。

そして、模範演技がおわるやいなや、Aさんは、「あっ、今から出勤なんだ。体育館前にタクシー待たせてるから」と疾風のように走り去っていきました。模範演技はわずかに30分。たったそれだけのために、ここまで来て、タクシー代まで使うあなたってすごすぎるよ～（感涙）。男子新体操には、こんなコアなファンまでいるのですよ。今日の観客の中からも、1人でも多くの男子新体操ファンが生まれてくれるように祈りたいものです。

## 第3章 2010 全日本インカレ

### 2010 全日本インカレ直前 ～国士館大学① 個人選手編～

近年は、団体、個人とも青森大学の後塵を拝することが多い国士館大学だが、もとはと言えば、男子新体操の老舗中の老舗！ 伝統校復活を狙う気持ちを失ってはいない。だが、その一方で、「個人は青森大学と花園大学が一步ぬきんでいるので、うちは胸を借りるつもりでいきます」と言う。

たしかに、国士館大学の個人選手達には、高校時代からインターハイなどの大舞台で実績を残してきたという選手は多くない。しかし、じつはなかなかよい選手達が揃っているのだ。いざ試合となって、審判が採点すれば、青森大や花園大のスター選手達よりは下、になってしまうことが多いかもしれないが、それでも、十分に男子新体操のよさ、大学生の男子新体操の魅力を見せてくれる選手達だ。

#### ●清水翔吾(4年)

高校時代は井原精研高校の団体メンバーとしてインターハイ優勝も経験している。井原育ちらしい線の美しさと柔らかくしなる腕の動きが魅力的な選手だ。十分な能力とスター性をもっていながら、どことなく控えめな感じに見えるところがある。顔立ちもとても美しいので、もっともっとナルシズム全開！ で演技すると、より印象の濃い演技になりそうだ。



#### ●有田真章(4年)



独特な選曲、演技でどの大会でもとても印象に残っている選手だ。国士館のエンターテイナー！ 音楽にのせて動く能力がとても高く、踊り感をとても感じる。ミスが出てしまうことも少なくないのが惜しいが、ミスをおそれず、独自の世界観を存分に見せつける思い切りのよい演技を見せてもらいたい。

#### ●鈴木駿平(3年)

彼の名前はぜひ覚えておいてほしい。ある意味、国士館大学のかくし玉的存在の選手だ。八王子実践高校時代には、全国大会の出場経験はないが、大学に入ってからぐんぐん力をつけてきている。身長が高く、すべてにおいてのバランスがよい。リングの演技では、やさしい曲調にあった柔らかな動きと表情を見せ、ぐっと胸に迫るものがある。柔軟性もあり、大舌舐平ばりの見事なもぐり回転に注目！ 現在、3年生。あと1年でどこまで開花するか楽しみな選手だ。





### ●山田隆史(3年)

とても表現力のある選手で、空気をうまくつかんでいる印象の演技をする。表情もとてもよくせつなさが伝わってくる。「演じる気持ち」の強さが伝わってくる選手だ。スティックの演技にはストーリー性も感じられる。リングでは一転してメリハリのあるパワフルな動きを見せ、いろいろな雰囲気演技を演じ分ける力をもっている。非常に研究熱心、練習熱心な印象の選手で、練習中の運動量の多さには驚く。現在、3年生。今回のインカレを残り1年に向けてのいいステップにしてほしい。

### ●篠原良太(2年)

スティックのラストでの3回前転キャッチに注目！ のびやかで雄大さを感じさせるのびの姿勢がとてもよいが、曲調が早いとやや動きがばたばたしてしまう感がある。ゆったいりした曲だと、そののびやかな美しさを十分に発揮できている。穏やかで人のよさそうな性格に見えるが、その性格がそのまま演技に反映しているように感じられ、好感度の高い演技だ。



### ●水島勇貴(2年)

動きがていねいで美しく、手具のキャッチもやわらかい。悪いところはないバランスのよい選手だが、もう一步「どうだ！」と迫ってくるような濃さが足りない気がする。キメポーズ以外の部分での目線など、もっと前を向いてアピールすれば、もっと評価されてもおかしくないだけの実力はもっている。まだ、2年生。経験値があがってきたときが楽しみな選手だ。

### ●稲葉 亮(2年)

今回のインカレには個人では出場しないが、種目別のロープ団体のメンバーとして活躍している。大柄で雄大な印象の演技。音楽に入り込む力もあり、将来が楽しみなイケメン選手だ。



### ●佐々木智生(1年)

身長が高く、大きさ、のびやかさのある演技が持ち味。その一方で、スティックを脚の下で持ち替えながらのバタフライジャンプの連続や、リングで見せる多彩な手具操作など、体の大きさのわりに小技もできて、スピード感もある。とくにリングの演技は、見どころ満載なので注目してほしい。

### ●弓田速未（1年）

スピード感のある演技は、とても疾走感があり、いい。動きにキレがあり、目力もあるので表現力を感じさせる選手だ。手具操作もとても工夫されていて、ハッとさせる投げ受けも多い。自分の演技に入り込む力もあり、まだ1年生ということを見ると、将来がとても楽しみだ。

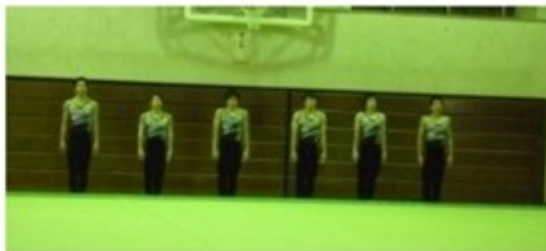


## 2010 全日本インカレ直前 ～国士館大学② 団体編～

青森大学の台頭で、団体でもその王座を譲ることになって久しい国士館大学だが、近年では2008年の全日本選手権で青森大学に一矢を報いている。あの2008年の演技は、「国士館、健在！」を示すものではなかったか。

最近、高校時代に輝かしい実績をあげた選手が青森大学に進学してしまうことも多く、国士館大学は「ビッグネーム」の高校生を獲得することも難しくなっているという。団体も個人も、なかなかかつてのように「常勝・国士館」といなくなってきているのは、たしかな現実だ。

しかし、それでも。「うちは挑戦者」と言い切った個人と違って、団体に関しては国士館大学も、青森大学に「胸を借りる」という気持ちではない。



勝てる可能性は十分にあるし、勝つつもりで、自らの爪をとぎ、牙を磨いている。・・・そう感じた。

これは、女子でもよく感じていたことだが、本当に「団体」とは不思議なものだ。たし算で考えれば、絶対に強いはずのチームに、たし算では劣るチームが勝つことが少なくない。そこが団体のおもしろさであり、難しさな

のだが。

さらに、団体は個人に比べて演技時間が長い。それだけに、そこで描かれている世界が、好みに合うかどうかで評価にかなり差が出てくるように思う。「うまいけど、なんだかな～」と感じさせてしまう演技では、やはり点数は出にくい。

国士館大学の団体作品は、正統派だと私は思う。「男子新体操かくあるべし」の枠をよくも悪くも大きくは踏み外さない。

そこがおそらく国士館のよさであり、ときに弱さかもしれないが、こと団体に関しては、よい面となっているように感じる。国士館大学の団体演技は、強烈な個性にはやや欠けるが、いや味がない。そして、爽快感、清涼感がある。きちんと実施され、見事に同調したならば、評価したくなる演技、のように私は感じた。

「国士館らしさを見せる演技をしたい」と山田小太郎監督は言う。では、その「国士館らしさ」とは何でしょう？ と問うてみると、「徒手の質・体操としての質の高さ」という答えが返ってきた。国士館が常勝だった時代と違って、今の男子新体操にはより多くの要素が求められるようになってきている。高度のタンブリ



ングや独創的な組み、振付や動きの奇抜さなど。国士館大もその流れを無視しているわけではない。取り入れるべきものは取り入れ、新しいものにも取り組んでいる。

が、一方で、もっとも大切にしたいと考えているのは、「徒手の質」なのだという。つまり、昔からあるあの男子新体操独特の動き、初めて見た人は「え？ラジオ体操？」と思うあの動きの質をあげ、そこで国士館らしさを示したいというのだ。

現在の男子新体操の中で、その部分はどうしても地味な印象がある。そこにこだわるというのは、すこし遠回りなような気がしますが、と私は失礼な感想を伝えた。「国士館は伝統のある大学ですから。やっぱり男子新体操の原点は大事にしたい。徒手運動の大きさや質にこだわって、そこで勝っていくのが国士館だと思っています。」やや頑固なまでに、山田監督はそう答えた。

「ぼくの考える国士館らしさも、昔を知っている人から見れば違うところはあるだろうと思います。だけど、過去を知っている人にも納得してもらえる国士館らしさを築いて、それに結果もついてくるようになればいいなと思っています。まだまだ成長段階なので、結果を望むのは厳しいかもしれませんが、好きならば、という準備はしています。」

男子新体操の王道を突き進み、貫いて勝つ！それが、国士館大学の生きる道、であり、山田小太郎の進む道なのだろう。



## 2010 全日本インカレ 1 日目(個人競技)

●大舌恭平(青森大学) まず衣装がすごい！サブフロアにいるときからオーラが違う。黒のパンツロンに、袖が肌色ネットに飾りつけのある衣装。足元も黒にしている長い脚がますます長く見える。スティックでは、演技中のジャンプターンがとても美しく、やや芝居がかった表現も似合いすぎる！まさに千両役者！なところを見せた。リングは「ルパン三世」の曲で、本来男子新体操ではないだろう？と思われるダンスブルな動きが随所に入っていたが、それがどれも決まりすぎていて文句のつけようがない。手具の動きは速くないが、それもすべて演出に思わせることのできる演技だった。

●北村将嗣(花園大学) スティックでは、いつもの北村ワールド全開！曲も動きも独特のテイストで見せる。手具操作も巧みで、動きの中に自然に組み込まれていてバランスのいい演技だ。リングも、気合十分に情熱的な演技を見せてくれていたが、最後の脚キャッチでミスが出て、本当に惜しかった。2種目とも「北村将嗣らしい」演技は見てくれたので、明日に期待！やはり、この人の「踊り心」はすごい！

●柴田翔平(青森大学) 1種目目のスティックでは、宙返り中にも常にスティックが回っているという魔法のような手具使いを存分に見せてくれた。投げを受けて、そのまま投げ返すなど、多彩な投げ受けも見事！爽快な演技だった。リングも、非常にエネルギッシュで、運動量の多い演技をミスなくこなしたが、わ

ずかに滞りが見えた瞬間もあった。しかし、見ごたえ十分な演技で、私は泣きそうだった。こういう演技が成功したときの爽快感はやはりいい！ 明日も翔平マジックを見せてほしい！

●谷本竜也(花園大学) 相変わらず腕のしなり、指先の流れが美しい～！スティックでは3回前転キャッチもうまく決まって、美しい演技。リングでは落下が1回あったのが残念だったが、2種目ともとことん美しい印象の演技だった。上体や腕の動きの美しさに目が行くが、足元にはやや欠点も見えるが、全体的なバランスのよさで相殺されている感じ。

●福士祐介(青森大学) 体を伸ばして、上にホップするときの高さがあり、動から静への切り替えが絶妙！硬質な美しさのある演技で、1種目目のスティックはほぼ完璧に決まったが、リングでは2本投げで1本落下があったのが残念。落下したところ以外の投げは高さもあり、回転も速くよかったし、リングのほうが難しい曲調だったが、うまく表現できていたのだが。残り2種目に期待したい。

●野口勝弘(花園大学) スティックは非常に大仰な曲を使っていたが、ドラマチックに踊りあげていた。体のラインが美しく、後屈がやわらかい。リングでは力強さとやわらかさが同居する絶妙の演技を見せ、ラストはリングに両足を入れてブリッジの姿勢で終わるという柔軟性を生かした技だった。

●廣庭捷平(福岡大学) タンブリングや手具操作など能力も高いうえに、スティックでは前衛的な音楽を見事に表現。リングでは一転して正統派の美しい演技をドラマチックに踊りあげるなど、表現の幅の広さを見せてくれた。

●小林 翔(青森大学) 踊り感たっぷりの動きの美しさは格別。上体や腕の動きでの見せ方がうまく、独特の空気をかもし出している。とくにリングでは、ダンス的な動きが多用されながらも、新体操らしいよさが非常に感じられ、ダンスと新体操の巧みな融合を感じさせた。

●椎野健人(青森大学) 柔軟性に秀でていて、他の人にはできないようなポーズができるだけでなく、普通のそりの姿勢なども柔らかさとシャープさがあって、1つ1つのポーズがとても美しい。気持ちよく音楽にのって流れるように展開する演技は見ていてとても爽快だ。



●鈴木駿平(国士舘大学) リング、スティックともこの選手らしいのびやかさとやさしさのあるいい演技で、ノ



ミスでまとめた。強い個性や力強さはあと一歩だが、まっすぐな印象の素直な演技は好感度が高く、身体的にも能力的にも穴のない選手。もっと自信がついて、アクが出てくると大化けしそう。

●佐々木智生(国士舘大学) 大きな体がより大きく見える雄大な演技だった。リングでは手具操作の巧みさもを見せてくれて、タンブリングも強く、華もある。とてもバランスのいい選手だ。音楽の世界に入り込む力もあり、叙情的な動き、表情も魅力的だ。

●藤岡顕太(花園大学) 動きがとにかくなめらか。とくにリングの演技では曲に動きがとてもよく合っていて、演じきれていた印象。手具操作、タンブリ

ングなどすべての平均値が高く、見ていて気持ちのいい演技だった。

●植野慎介(中京大学) リングでは落下が1回あったが、圧巻だったのは2種目目のスティック。宇多田ヒカルの「ファーストラブ」のやさしい曲にのせたどこまでもやさしくやわらかな演技で、「初恋のせつなさ」さえ感じさせる胸にしみる演技で、抜群の表現力を見せた。スティックという手具でこんな表現ができるとは！という新鮮な驚きがあった。

●菅 正樹(花園大学) リングで見せた巧みな手具操作には脱帽。手具も体もよく動き、スピード感のある演技は爽快。まだ1年生だが、とにかくうまい！より表現力を増してくると、すごい選手になりそうだ。

●増田快雄(青森大学) あまりにも音楽に一致した動きはため息もの。リングでのラストの投げうけ(首と足を入れて止める)も見事に決まった。スティックでの落下(場外も?)がとても残念だったが、スティックの演技での独特の動きはすばらしかった。体の隅々までが細かく動くのには感心する。

●磯貝康成(大阪体育大学) 硬軟とりまぜた印象のすばらしい演技を見せてくれた。タンブリングは強く高く、ひねりもすごい。ローリングや甲立ちなど柔軟性も十分にを見せてくれた。フロアを隅々まで使った広がりのある演技はダイナミックで印象に残った。スピード感もあり、やわらかさも、緩急のある演技は表現力も感じさせてくれた。

<写真提供:フォトクリエイト>

## 第4章 2010 オールジャパン

### 2010 オールジャパン直前企画 見逃せない！ 男子大学生選手たち

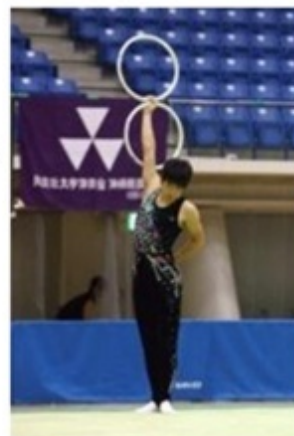
#### ☆鈴木駿平(3年)

男子新体操にはステキな選手がたくさんいる。そんな中で、私の「かくし玉のお気に入り選手」が彼だ。しかし、インカレには、1年生のときから出場。2008年は30位、2009年に24位と順位を上げ、今年はずいに15位で見事にオールジャパン進出。もう「かくし玉」とは言えなくなってしまったのが、残念なような気がする。

鈴木駿平は、男子新体操の強豪校のない東京で育った選手だ。それゆえに高校までは全国レベルの大会の出場経験がない。まったくの無名だったと言ってよいだろう。その鈴木が、自宅から通える国士舘大学に進学し、新体操に打ち込むうちに、オールジャパンにも出場する選手になった。まさに「遅咲きの星」だ。

彼のよさは、欠点のない素直な体ではないかと思う。ただ立っているだけでこんなに美しい選手は珍しいと思う。身長も高い彼の、この「すうとしたライン」は、彼の最大の武器だろう。さらに、タンプリング、手具操作などにも大きな穴がなく、やればやっただけうまくなりそうな「のびしろ」をまだまだ感じさせる。表現力だってまだほんの入口という感じだ。

それでも、天性ののびやかさ、美しさゆえに見ている人の心をうつ演技ができる、それが鈴木だ。今年、大学3年生。遅咲きの花は、来年どんなに大きな花を咲かせるのだろうか、楽しみでならない。



#### ☆篠原良太(2年)



数年前、テレビのバラエティー番組が男子新体操をよく取り上げていたところに、常に部員不足に悩んでいる高校として出ていたのが小松島高校だった。彼はその小松島高校の出身だ。2005年には全日本ジュニアにも個人で出場、2007年のインハイには小松島高校の団体メンバーとして、また2008年には団体、個人ともに出場している。2009年に国士舘大学に進学すると1年生からインカレにも出場、このときは16位になり、オールジャパンにも出場を果たしている。1年生としては立派な成績だ。篠原の特徴は、ふんわりと高く高く舞い上がる宙返りだ。空中でのひねりも速くキレイがいい。とても素直でくせのない動きは見ていて気持ちがいい。きっと彼は、驕ることなくもくもくと、陽が当たっても当たらなくても、ただ新体操を好きで続けてきたのだろう、そう感じる演技

だ。決して派手ではないのだが、国士館大学でのあと2年で、もっと貪欲に上を目指していけば、かなり大化けするのではないか、そう予感させる選手だ。

### ☆佐々木智生(1年)

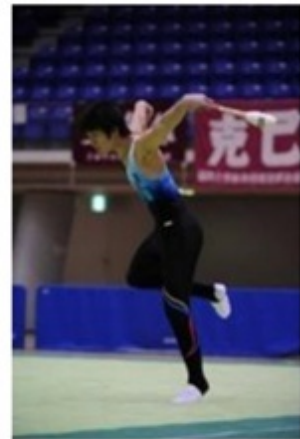
長身なせいもあり、とても大人っぽく見える選手だ。その大きな体を生かした演技は、ダイナミックで華がある。そして、ちょっとセクシーだ。いわゆる「表現力」で見せるというタイプではまだないように見える。

傍から見れば、「見せる＝魅せる」にいかにもなりそうな容姿なのだが、本来は照れ屋なのではないか、というのが演技にもどことなく見えるのだ。

だから、彼の演技は、ダイナミックなタンブリングと巧みな手具操作のバランスのよさが印象に残る、極めてオーソドックスなものだ。ロープの演技は、彼の雄大さがとてもよく生かされていてほれほれするが、クラブやリングでは、器用な手具操作も見せてくれる。1年生にしてはこにくらしいほど完成度が高い、と言っていいだろう。

さらに、この選手が、自らの容姿のアドバンテージを生かして、「どうだ、オレってかっこいいだろう！」と迫ってくるような演技をするようになったら、無敵の艶っぽさが出てくるのではないだろうか。そんな妄想をかきたててくれる選手である。

調べてみると、インハイでは、2009年が7位、2008年は3位、さらにさかのぼれば、2006年の全日本ジュニアでは2位と、すでに十分な実績をもった選手だ。大学で、この先、より大きく飛躍してくれることを期待したい。



### ☆国士館大学団体

インカレ1日目の国士館の演技は、すばらしかった。王者・青森大にミスが出たこともあり、予選は同点。国士館には申し訳ないが、これは予想外の展開だったと言ってもいいだろう。しかし、ある意味、国士館はこれを狙っていたのだ。いくら青大が強いと言っても、常に完璧ということはないのだから。ほころびが出ることは必ずある！しかし、そのときに国士館も共倒れ



になったのでは勝てるはずがない。

だから国士館は、常に、自分たちなりのベストパフォーマンスを見せなければならない。そうすることで、勝機はめぐってくるかもしれないのだから。今年のインカレはまさにそうだった。

予選での試技順は国士館が先だった。そして完璧な演技を見せた。青大は、国士館のその完璧な演技の次に演技をした。ミスはあったが、決して悪い演技ではなかった。それでも、「今回は国士館もよかった、いや国士館のほうがよかったかも？」と思わせることができた。だからこそ、同点という結果が出た。

それほど、予選での国士館の演技はよかったのだ。青大がミスをしたのだって、国士館のパーフェクトな演技のあとだったということがまったく影響していないとは言えないだろう。とにかく、予選での国士館はしてやったり！ だったのだ。

ミスがなく、どこまで大きく見えた、この日の国士館の演技は、国士館と山田監督がこだわっている「体操の質」の良さを見せつけたと言えるだろう。しかし、残念ながら決勝では、青大の気迫あふれるノーミス演技のあとで、今度はまったくのまれてしまったような演技になってしまった。大きなミスがあったわけではない。が、ほんのすこしのズレがいくつかあった。決勝ではそのわずかなズレが大きく見えてしまうほどに、青大の演技が完璧だったのだ。

前日にはあんなにも雄大に見えた演技が、ほんのわずかなズレでしゅっとしぼんで見えてしまう怖さをそのとき私は感じた。しかし、それは小さなズレを修正することさえできれば、何ランクも上のレベルの演技をすることができるということでもある。なんとも男子新体操は奥が深い。

ジャパンでの国士館大学は、どちらが出るだろう。もちろん、「ベストパフォーマンス」で、あの雄大な演技を見せてくれることを期待している。伝統の3バック+スワンでまた観客を酔わせてほしい！

<写真提供:フォトクリエイト>

## 男子個人総合最終結果

- 1位:北村将嗣(花園大学)【4種目合計=37.925】
- 2位:大舌恭平(青森大学)【4種目合計=37.750】
- 3位:谷本竜也(花園大学)【4種目合計=37.575】
- 4位:野田光太郎(KYOTO 花園R. G. C)【4種目合計=37.250】
- 5位:福士祐介(青森大学)【4種目合計=37.050】
- 5位:廣庭捷平(福岡大学)【4種目合計=37.050】
- 7位:柴田翔平(青森大学)【4種目合計=36.925】
- 8位:菅 正樹(花園大学)【4種目合計=36.725】

### ●種目別スティック

- 1位 大舌恭平(青森大学)9.550
- 2位 北村将嗣(花園大学)9.500
- 3位 柴田翔平(青森大学)9.425
- 4位 野田光太郎(KYOTO 花園 RGC)9.400
- 5位 増田快雄(青森大学)9.375

- 6位 静 真樹(花園大学)9.300
- 7位 福士祐介(青森大学)8.925
- 8位 植野慎介(中京大学)8.800

●種目別リング

- 1位 北村将嗣(花園大学)9.550
- 2位 大舌恭平(青森大学)9.500
- 3位 谷本竜也(花園大学)9.425
- 4位 柴田翔平(青森大学)9.400
- 4位 野田光太郎(KYOTO 花園 RGC)9.400
- 6位 福士祐介(青森大学)9.175
- 6位 有沢一希(アルフレッサ日建産業)9.175
- 8位 篠原良太(国士舘大学)9.000

●種目別ロープ

- 1位 大舌恭平(青森大学)9.550
- 2位 北村将嗣(花園大学)9.500
- 3位 谷本竜也(花園大学)9.400
- 4位 菅 正樹(花園大学)9.350
- 5位 野田光太郎(KYOTO 花園 RGC)9.275
- 5位 佐々木智生(国士舘大学)9.275
- 7位 柴田翔平(青森大学)9.150
- 8位 竹内佑真(花園大学)9.050

●種目別クラブ

- 1位 大舌恭平(青森大学)9.550
- 2位 谷本竜也(花園大学)9.525
- 3位 北村将嗣(花園大学)9.500
- 4位 菅 正樹(花園大学)9.350
- 5位 植野慎介(中京大学)9.325
- 6位 野田光太郎(KYOTO 花園 RGC)9.300
- 6位 臼井優華(岐阜済美高校)9.300
- 8位 鈴木駿平(国士舘大学)9.275



## 2010 オールジャパンレポート ～篠原良太(国士舘大学)

### 「予兆」

オールジャパンでは、初日の2種目(スティック、リング)ともに9位。2日目に迎えた3種目目・クラブで痛恨の2回落下。最終種目のロープでは、持ち直したもののクラブの8.700が響き、総合17位に終わったのが篠原良太だ。

国士舘大学の2年生だが、失礼ながら、ひと目見ただけで印象に残る、というタイプの選手ではないと思う。しかし、よく見てみるとかなり味のある、そしてこだわりの感じられる演技をする選手だ。

じつは、先日見に行った前橋での演技会でも彼はロープの演技を披露したのだが、これがすばらしかった。競技で見た演技よりも、いちだんと濃く、個性を感じさせる演技だった。おそらくサービス精神旺盛な性格なのではないだろうか。勝負もかかっている、大勢の観客が集まってくれている、そんな状況を「やったぜ！」という力にできる選手なのかもしれない。

篠原の演技でとくに印象的なのは、動きの速さ。象徴的なのが、3回前転キャッチだ。オールジャパンでは、スティック、リングとも見事に決めたが、今まで見た試合では落下したこともある。リスクの高い技なのである。が、彼はおそらくこれにはこだわっている。そして、かなりの確率でモノにしている。また、彼のひねり宙返りは非常に高い、いや、ジャパンレベルの選手達はほとんど高いのだから、彼がとりたてて高いわけではないのかもしれない。

しかし、少なくとも「高く見える」のだ。気をつけて彼の宙返りを見ていて気づいたのは、空中でとてもきれいに足がそろっていることだ。このびたっとそろった足先が、ひねり宙返りの美しさや浮遊感につながっている、そんな風に見えた。

同じ国士舘大学からオールジャパンに出





場した鈴木駿平、佐々木智生は、長身で美しいラインをもった選手達だ。彼らと比べてしまえば、篠原良太は、「ごく普通」に見える。しかし、彼の演技からは、体型に恵まれた2人に負けないほどの雄大さ、のびやかさが見える。表現力もある。



リングでは、「龍馬伝」のテーマ曲を使ってドラマチックな演技、スティックとクラブでは、せつなくなるような美しい演技、ロープがちょっと不思議な印象のスピーディーな演技と、見事に演じ分けているが、どの演技もよく似合っている。

曲に入り込む能力、が高いのだろう。美しい曲で流れるように演じるスティックやクラブでは、手具のキャッチもことさらにやわらかく、曲のイメージをこわさない。そんな繊細な演技を見せるが、スピード感のあるロープの演技では、まるで音符の上をはねているような音のとり方をする。とくべつ目を引くような動きやポーズを入れているわけではないのだが、演技全体で曲をうまく表現している、そういうタイプの表現力が感じられる。じつに芸術家で、多彩な選手なのである。

私の取材メモを見ても、申し訳ないが昨年はそれほど印象に残っていないようなのだが、今年のインカレからはかなりの高評価になっていた。まだ大学2年生。おそらく伸び盛り、である。Aさんメモでも、落下したクラブ以外は、すべて☆つき。スティックなどは5つ☆だ。Oさんの評価も高く、リング操作のおもしろさ、速さを絶賛。そして、落下のあったクラブでも「ノームスが見たい演技」と書いてある。

大学までで競技を終えるとしても、あと2年は彼の演技を見ることができる。なんだかとても「魅せる選手」に化けていきそうな気がしてならない。今年の演技もステキだったが、これはブレイクの予兆にすぎなかったと思える2011年、2012年になればよいと思う。

## 2010 オールジャパンレポート ～鈴木駿平(国士舘大学)

### 「躍進」

女子の新体操では、今年、山口留奈選手が目覚しい躍進を見せた。ここ数年、かなり上ってきていた選手ではあったが、1年前のオールジャパンのときに、1年後に山口選手がチャンピオンになるかもしれない、と

思っていた人は少なかったのではないかと思う。それが、優勝こそは逃したものの、限りなく優勝に肉迫した準優勝。スポーツ選手には、こういうことがある。

男子では、国士館大学3年の鈴木駿平がそうではなかったか。鈴木は、3年生にして初めてのオールジャパン個人出場を成し遂げた選手だ。1、2年のときはインカレには出場しているがオールジャパンへの出場権を得られる順位にはいなかった。今年のインカレでは15位。やっとの思いでつかんだ日本の舞台だった。

1日目、鈴木は1種目目はスティック。試技順は7番と比較的早かった。美しい伸身ひねりや、長い手足からかもし出されるのびやかな雰囲気、緊張感がとてもいい演技を見せるが、緊張感を感じられた。そして、落下が1回あり、8.975。このところほとんどの種目で9点台にのせられるようになってきた鈴木にとってはホロ苦いジャパンデビューとなった。

しかし、このスティックでの落下で、ふっきれたかのように、そこから鈴木は快進撃を見せる。インカレ前の国士館での練習を見学したときに、「なんてステキな演技だろう」と目が離せなくなったリングは、見事なノーミス。技を詰め込んだ演技構成ではないのだが、それだけに、鈴木ののびやかさや美しさ、素直な動きの心地よさが、やさしい音楽とどこまでもマッチする。とてもさわやかで澄んだ印象の演技で、9.175。Aさんのメモには「本人もこの曲が好きなんじゃないか」と書いてあるが、私もそう思う。好きでなければこんな風にいつくしむような演技にはならないと思うから。

1種目目でのミスの記憶を振り払うような会心の演技で、演技終了後にはガッツポーズも出た。おそらく、「このまま雰囲気にのまれてミスが続くのでは？」という不安とも戦っていたんじゃないだろうか。しかし、鈴木はその不安に勝ったのだ。9.175・・・悪くない得点が出た。



2日目の鈴木は、ロープの演技が先だった。リングとはがらりと違う男らしさ、かっこよさを感じさせる曲と演技で、四肢の長さや動きの大きさが映える。これもノーマスで9.175！ほんの1日前に、スティックで落下したときの緊張の面持ちはもうない。最終種目のクラブは、先日の国士舘大学の学園祭の演技会でも見たが、かなり完成度が上がっていた。それだけに期待して見ていたが、期待を裏切らない演技を鈴木は見せた。

一瞬、クラブを手から離す小技もあり、高い高い投げもあり、そしてなによりもフロアが狭く感じるほど大きく空間を使った演技で、見ている者を引き込む力があった。ところどころに入るキメポーズも見るたびに決まってくる。来年は大舌恭平ばりに魅せる演技をしてくれるんじゃないか、そんな期待がふくらむ演技だった。クラブでは、9.275を出して、総合成績は12位までであった。インカレ通過順位は15位だったことを思えば、大躍進だ。

今年の東日本インカレを見たときに、私は鈴木のことを「きれいな演技。穴のない選手」とメモをしている。



好印象はもっていたのだ。しかし、東日本インカレでは2日目しか見ていないため、リングの演技を見ていなかった。だから、そこまで強い印象は残っていなかったようだ。それが、インカレ前の練習では、目が離せないような選手になり、インカレでは、しっかり誰の目もひく選手になっていた。

そして、ジャパン！クラブでは種目別決勝にも残ることができた。これが躍進ではなくてなんだろう。今の鈴木演技を見ると、確実に自信をつけてきているように見える。それもいい意味での自信だ。こういう自信をつかんだとき、選手は伸びる。それは山口留奈の例を見ても明らかだ。

インカレ前に国士舘の練習を見に行ったときに、山田監督が選手達に言っていた言葉を思い出す。「いい演技ができて、思った以上に高い点数が出て、思った以上に上の順位に自分がいても、そのことにびびるな」と。来年の鈴木はまさにそこだろう。

おそらく、今年は無欲な挑戦者でいられただろう。しかし、来年は、4年生でもあるし、もう「かくし玉の鈴木」ではない。そのプレッシャーに負けないでほしい、と思う。ただ、あまり心配はしていない。そのことをプレッシャーだと感じるのではなく、嬉しくて楽しい！と感じられるだけの時間をかけて彼は

ここまで来たのだから。

おそらく3年前、ジャパンで12位になる自分を鈴木は想像していなかったのではないか。だったら、来年も何もおそれることはない。「自分はどこまでやれるかな?」と、自分のことを自分が一番楽しみにしていればいいのだ。鈴木のごきげな演技は、そんな気持ちで演じるのがいちばん似合う。私は、そう思う。

## 男子団体総合

### 1位 青森大学

王者らしい貫禄ある演技を見せた青森大学。外崎のダブルスワンは着地でひやりとしたが、もちこたえたのはさすが。小さな揺らぎがあっても、持ちこたえられるのが今の青森大学の強さだ。

### 2位 花園大学

変幻自在の花園大学は、インカレとはまったく違う曲と構成で、花園大とは思えないスピード感あふれる「ザ・男子新体操」な印象の演技で、文句なしのかっこよさだった。昇り竜のような勢いで初の準優勝!

### 3位 鳥森RG

さすがドリームチーム! とうならせる迫力の演技だった。動きの美しさも、タンブリングの多彩さも、現役を離れていた人達だとは思えなかった。観客席には「タンブリング」のTシャツを掲げたファンらしき軍団もいたようだ。



### 4位 国士舘大学

団体競技が終わったあとの会場の様子(男子フロア側の観客席)。男子フロア側の観客席は満席! かくじつに女子フロア側よりも観客が入っていました。しかも、出場者の関係者ではなさそうな一般の観客が多かったことは、画期的だと思います。



本日のエキシビションで、ドラマ「タンブリング」の主題歌を歌ったハニエルが登場して、「まなざし」を歌ったのですが、生「まなざし」をBGMにこの観客席の盛況を見ていたら、感無量になりました。

男子新体操にはたしかに風が吹いていると思います。だけど、これを一過性のものにしないためには、関わるすべての人の力が必要だと思います。私も微力ながら、できることから頑張っていこうと思います。いろんな意味で、記念すべきオールジャパンでした。この場に居合わせられて、本当によかったです。

<撮影:小林隆子>

※小林隆子(こばやしとかこ)

⇒AJPS(日本スポーツプレス協会)会員のカメラマン。『DDD』『クララ』『スポーツナビ』などで活動するとともに、自ら運営するWebサイト『Figgy』では、感性豊かな新体操の写真を公開している。

男子新体操に恋してる！（国士舘大学2010）

<http://p.booklog.jp/book/50577>

著者：rgkeikos

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/rgkeikos/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/50577>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/50577>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社paperboy&co.